

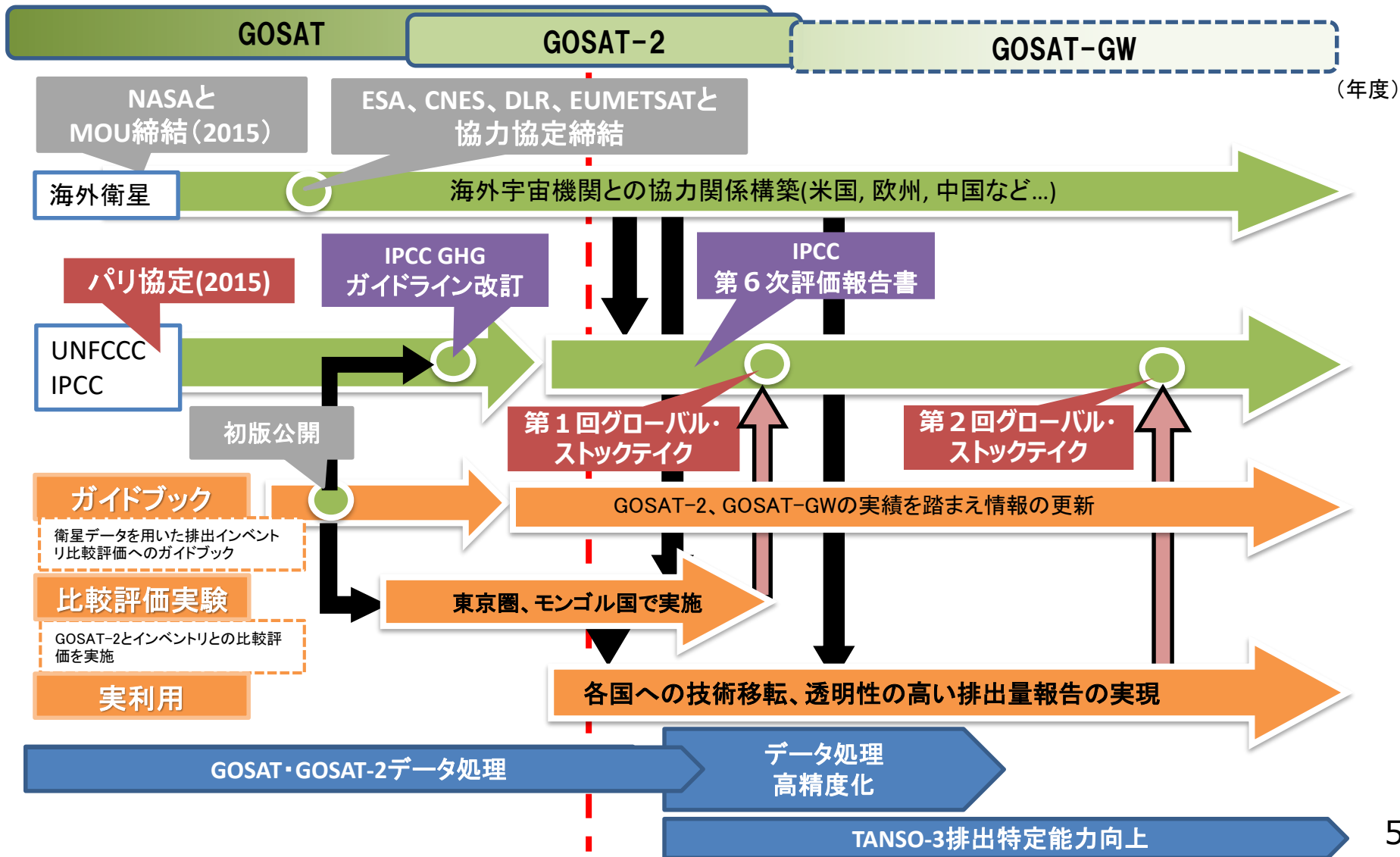
4. GOSATシリーズによる国際貢献

モンゴルを対象とした GOSATシリーズ温室効果ガス排出量推計精度評価業務 進捗状況について

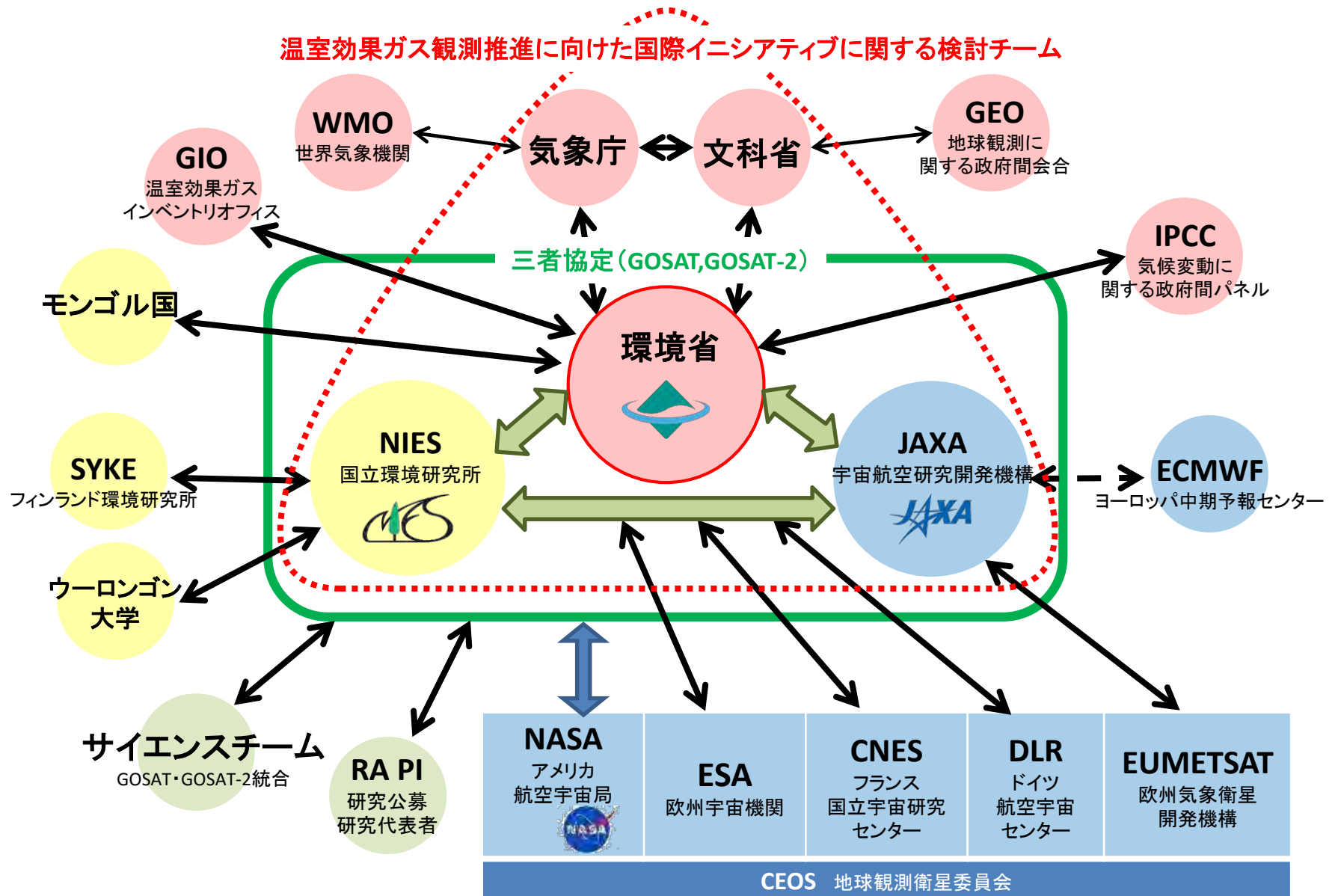
- 本事業では、GOSATシリーズの客観的精度検証の一環として、モンゴル国を対象にGOSATによるCO₂排出量推定技術の開発を2018年12月から実施。
- モンゴル国ではGHG排出インベントリを2014年に整備し、現在2018年時を整備中であり2021年以内にUNFCCCに報告する予定。
- GOSAT観測データから推計した2018年排出量と、モンゴル国の排出インベントリのエネルギー部門(2014年ベースをGDPを勘案して2018年の値として推計)を比較した結果、概ね一致。
- モンゴル政府において、今後2018年時のインベントリ報告書作成作業に今回のGOSATの結果を参考情報として活用頂くことに期待。
- 今後のGOSAT関連における協力関係において、CO₂吸収排出量推計の精緻化に加え、CH₄排出量の評価についても進める方向で合意。

5. GOSATシリーズによる国際貢献 スケジュール

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12

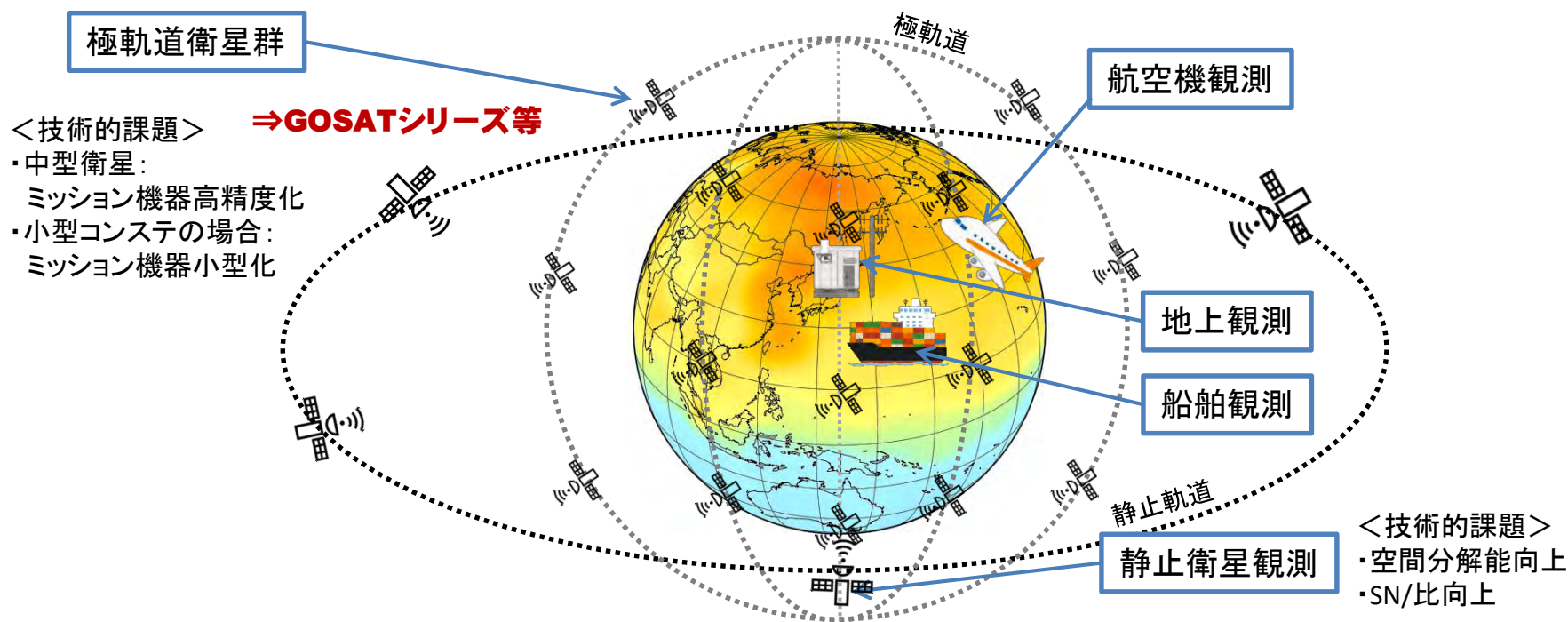


6. GOSATシリーズミッションの国際連携



7. 将来の温室効果ガス観測ミッションの構想案

日本だけでなく各国の静止衛星、極軌道衛星群、多様な地上観測、航空機、船舶等の連携により、温室効果ガスの排出状況を全球常時監視、準リアル情報配信



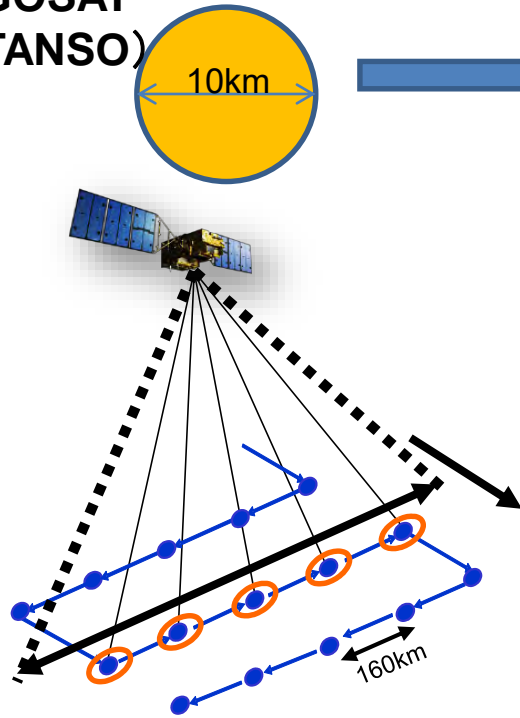
- ・ GOSAT,GOSAT-2,GOSAT-GWなど極軌道観測では、数日に1回程度、決められた時刻でしか観測ができず、観測頻度(時間分解能)が低い。
- ・ 将来のGHG観測において、全球常時監視、準リアルタイム情報配信を目指す場合、各国の静止衛星、極軌道衛星群、航空機、船舶、地上観測を連携させた観測を行うことが必要。

(参考)温室効果ガス観測センサTANSOシリーズの性能

温室効果ガス観測センサ3型(TANSO-3)のミッション

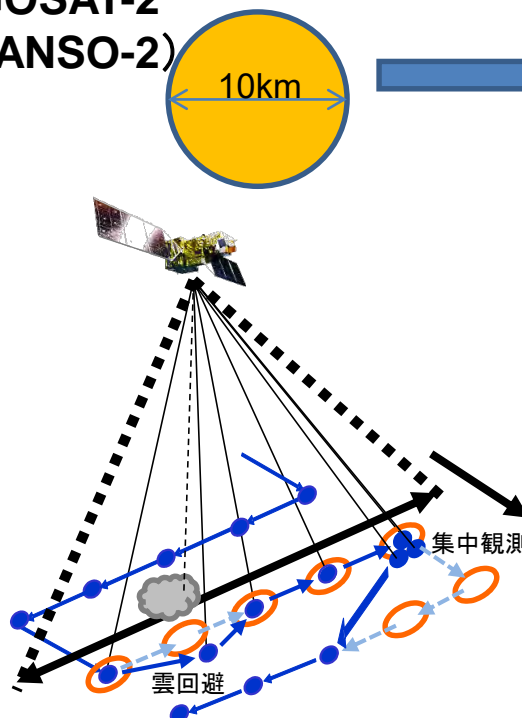
1. 全大気温室効果ガス(GHG)の月別平均濃度の監視
2. 国別人為起源GHG排出量の検証
3. 大規模排出源等のモニタリング

GOSAT
(TANSO)



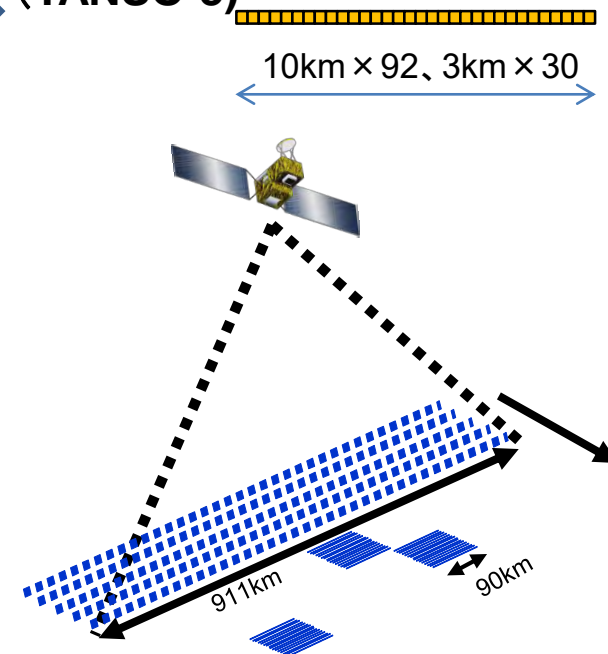
直径10キロの視野を持つ1つの素子を格子幅160キロの間隔で観測

GOSAT-2
(TANSO-2)



直径10キロの視野を持つ1つの素子で指定した地点を観測するほか、雲を検知し自動回避する観測が可能

GOSAT-GW
(TANSO-3)



全球を10キロ分解能で面的に観測、または指定した地域を3キロ分解能で90キロ幅で観測可能